



善正寺だより

〒512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎059-331-1670
fax:059-332-0733

掲示板法話

憎しみ越えて 輝きあおう

平和の道の 同朋となり

犯した罪の 過ちを

悲しく唄う 共命鳥

輝きあおう 憎しみ越えて

涙の歴史 映す川

人には人の のぞみあり

空には空の のぞみあり

あしたへ託す 夢を追い

はばたけ愛の 共命鳥

輝きあおう いのちの限り

輝きあおう 手を取って

平和の道の 同朋となり

（作詞・石本美由紀、作曲・あきたかし）

第二次世界大戦（太平洋戦争）の敗戦から七十三年目の八月を迎えました。過日、広島に宿泊した早朝、平和公園と原爆ドームを訪ねました。平和公園に詣でる人は皆、原爆犠牲者の碑の前で深々と沈思合掌しておられました。私も五十年ぶりに碑前に佇み、合掌、お念仏申したことです。少し歩くと原爆ドームです。今では永久保存のために耐震化等の工事が施され、登録文化財になっています。それは、人類が二度と核兵器の犠牲者を出さぬことを願う証の一つと言えるでしょう。広島法友にこの話を伝えたら、次のような歌を教えてくださいました。

「いのちがやいて」

1 人には人の いのちあり

花には花の いのちあり

生まれて生きて 人はみな

恵みを願う 共命鳥

輝きあおう やさしく強く

輝きあおう いつの日も

いのちと花を いつくしみ

人には人の 深あり

川には川の 深あり

2

この歌にある「共命鳥」は、「仏説阿彌陀經」にでてくる椋桑の鳥で、頭が二つで胸が一つの鳥。二つの頭同士が喧嘩して相手に毒を食わず結果、相手も死ぬが、自分も最後には毒が回って死んでしまいます。争って一時的に相手を負かしても結局は共倒れとなる愚かさを表しています。

七千発以上の核弾頭をもつ米露両国を始め北朝鮮に至るまで約一五七〇発の核弾頭の脅威に世界は今も



☆行事ご案内

◇秋季永代経 講師:加藤正人先生(桑名)

8月18日(土) 19日(日) 午後1時半

(両日共) ※但しお経開きは18日午前10時半

◇盂蘭盆会(うらぼんえ)法要(第3回)

8月15日(水) 午前8時半 正信焼、焼香、法話

地元の方、納骨堂利用者、誰でも、ご家族でお参り下さい。

◇絵手紙教室8月は休み、10月『百五娘行門徒展』作品募集中

◇キッズサンガ8月4日(土)午後4時。鐘撞きは毎日夕方5時、

※門信徒会費巡回依頼、裏面記載、ご協力よろしくお願い致します

三重組遠研受講者: 服部徹次氏、伊崎司郎氏、7/27より開始

◇善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索、1年分の寺報閲覧。

毎日更新ブログ「住職と坊守のつれづれ日記」好評。開設丸10年で27万1

千訪問、一日平均75人程、悩み相談、大歓迎!即返信

◇一總會テレホン法話 Ⅸ 059-354-1454お電話下さい

3分間で法話が流れます、週替わりで三重組5か寺の住職、坊守、

若院が担当。新刊本『参らせてもらおうでね』(白照社刊)発売中

◇新納骨堂:後継者の無い方、お墓でお困りの方ご相談下さい

◇法事の場所でお困りの方:本堂使用可。寺にご相談下さい。

さらされていきます。自分も虫も殺さぬ善人のつもりでも、相手次第、わが感情の居所一つで思わぬ怒り、腹立ち、嫉みの主となり、争ってしまう可能性を秘めている私たち。その間の深さ、愚かさは大慈悲心より免せられる智慧の光に遇うことなしに到底自覚されません。八月六日、九日の原爆投下の日、十五日の終戦の日は亡き人々を偲びつつ、共に仏前に首を垂れる日です。時あたかも旧暦の盂蘭盆会の日、ご先祖より受け継いだ命のお蔭を思い、真に命を大切に生きる道を聞き開く仏縁にして頂きたいと思えます。

写真アラカルト



坊守スケッチ 仏法聴聞は予防接種

6月広島別院で開催された全国佛教同志会で、茨城県みやぎホスピタル病院の理事長兼副院長の宮崎幸枝先生の特別講演がありました。先生は病院内で200回以上ピハラの会を主宰され、機関誌「ようこそ」は15年前から発行。医師であると同時に念仏者として患者さんに向き合い診療。「ようこそ」にはその視点を通じた日々が綴られています。講演での開口一番は

「一般的に患者さんは病気が治るのを前提で受診しますが、私の患者さんは死期の迫った人が多い。だから悠長なことは言っておれません。死を怖れる人たちに、死んだらお終いではありません。お浄土に生まれさせて頂くのですよ。阿弥陀様がお念仏となって届いて下さいますと、本音の直球で答えます。すると患者さん達の不安は消え去って感動の涙に包まれます。しかし医療にも限界があります。唯一人間だけが生命の限界を知る生物です。死を怖れる人に、どのように寄り添い、お浄土の世界へ導くかがピハラ医師の役目です。と、単刀直入にお話されました。

その後先生の著書を何冊も読んで、お坊さんの法話とは一味違った新鮮な感動を受けました。著書の中に

「仏法聴聞は予防接種」という言葉を発見しました。さすがお医者さんらしい着眼点です。仏法聴聞で、前もって「心配のない身」に変えて頂き、阿弥陀様に



全てをお任せする心で、安心して人生を生きることが出来ます。

私の友人に沢山の病気を抱えて長年苦しんでいる人がいます。最近も腰痛がひどくて医師から手術が必要と告げられました。彼女は早速インターネットその病名と医師の経歴を検索。溢れる医療知識で手術をすべきかどうか、医師が信頼するに足るかどうか迷っています。本人にとっては深刻な問題で、私は何の手助けもできませんが、彼女の迷いが消えて、本当の救いが見つかるのを願っています。医師を信じて何もかも阿弥陀様にお任せする気持ちが大切だと思えます。私も決して他人事ではなく、「仏法聴聞は予防接種」を心に刻んで安心して人生を歩みたいと思います。

カンパありがとう!

飛鳥一枝様、薄田美智江様、海野公子様、柴田美津代様他よりお志、切手等頂戴しました。感謝いたします。

四日市市 釋清風

体壇
藤蓮や汚泥の化生華と咲き
文化財原爆ドームの朝涼し
青畳大の字になる午睡かな



☆若院夫婦の「育自を毎日」その44

七月初め長女(3)の幼稚園の七夕保育参観がありました。長女の組は園児が24人、男女が半数ずつ。年少さんの保護者には下の子を選れた方が多く、私も3年前に長女を抱っこして連れて来て、ぐったり疲れました。

参観は、朝の体操と歌から始まります。「七夕さま」と「かもめの水兵さん」を踊りつきで披露。「かもめの水兵さん」の踊りがとても可愛くて、長男の時から私のお気に入りです。

次は親と一緒にペンギンのおもちゃを作りしました。紙コップにビー玉とゴムを付け、ゴムを巻けばカタカタと動きます。子供はペンギンの顔を描き、手を貼り付けて、画用紙に描いた道の上を走らせます。絵が得意な長女は出衆上がると上機嫌!

最後はホールで親子全員の記念撮影。ところがホールに移動する頃から長女の表情が曇ってきました。

「どうしたの?」と聞いても無言のまま。撮影時もカメラを向いていたかどうか分かりません。そして撮影が終わると、とうとう泣き出しました。私はすぐにピンときました。先生が「お写真を撮ったらお母さんは帰ります」と言ったのを、長女はちゃんと覚えていたのです。園児は参観後、給食を食べてから降園します。長女がまず泣き始めると、あちこちからも泣き声が聞こえてきました。たちまちクラスのお友達に伝染しました。「お母さん、行か

ないで!」そんな子どもたちの健気さがまだまだ可愛い年少さんでした。

ネットニュース

◇新年度三重組連続研修受講者に服部徹次氏と伊崎司郎氏が決定。連続12回仏教の学びを深めて下さい。

◇第3回「宝蘭盆会法要」8月15日(水)午前8時半。地元の方、新納骨堂利用の方、有縁の方等、ご自由にお参り下さい。正信焼、焼香、法話、お茶接待等、ご家族でお参り下さい。

お知らせ

平成30年度の門信徒会費のご依頼に、住職、総代さん、行事さんらが手分けして次の日程で巡回します。訪問予定日時の葉書が郵送してあります。が、ご都合悪い方はご連絡下さい。

8月3・4日夕方、四日市市街・菰野(住職と行事長)

7月28日朝、近隣住宅(住職)

8月5日朝、近隣住宅(総代)

7月下旬から8月上旬、在所(各行事)

☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」二九六号をお届けします。◇大阪北部地震(六月)に続いて西日本豪雨(七月)は記録的な水害となりました。特に広島、岡山、愛媛の方々には心よりお見舞い申し上げます。◇気象予報の精度が向上したのでまさかこれほどの死者数が出るとは予想もできませんでした。◇人生百年時代というけれど、聴聞の予防接種怠りなくありたいと願うばかりです。

平成最後のお盆を迎えました。この三十年間で何が一番変わったでしょうか。先ず思い浮かぶのは、誰もがスマホを肌身離さず持ち歩くこと。顔も知らない多数の相手と交信することです。一見世間が広がったように勘違いしますが、それに反して目の前の相手とコミュニケーションをとることが疎かになりました。家族の絆、ご先祖への感謝、地域の結束が薄れ、気に入った相手としか交信しません。また何でもスマホが解決してくれるように錯覚して先輩や先生に教えを乞うことはしなくなりました。自己中心の世界に関じこもって精神的にひ弱で苦勞を挫折と錯覚しがちになりました。人生一〇〇年時代も珍しくなくなり、私達は新時代をどのような心と体の準備をすればいいのでしょうか。予防医学研究者の石川善樹先生は「百歳長寿の九つのルール」を提示されました。(一)適当な運動をする。(二)腹八分目で摂取カロリーを抑える。(三)植物性食品を食べる。(四)適度な赤ワイン。(五)目的意識をはっきり持つ。(六)人生をスロウダウンする。(七)信仰心を持つ。(八)家族優先の生活。(九)人とつながる。以上後半(五・六・七・八・九)にいく程、平成の時代に失って来たことばかりです。私達シルバ世代は、残された人生に何を大切にし残すべきかを見直してみましよう。8月15日午前8時半「永代経」8月18日(金)・19日(日)午後一時半「永代経」亡き人をご縁に仏法聴聞の機会です。皆様のご参詣お待ち申し上げます。合掌

平成三十年八月

善正寺坊守拝